

山本澄子さん
太田隼人さん
城下義男さん
山本隆さん



【波佐谷町門徒会のみなさん】

小松市の南東部に位置する波佐谷町には家々を順番に回る「おぼくさん（お仏供）当番」がある。仏器と当番日誌が入った「おぼくさん箱」がやって来たら当番だ。仏器にご飯を盛り公民館のお内仏にそなえ『正信偈』を勤めてお参りする。公民館にお内仏が備えられ

大寄おぼくさん

真宗大谷派（東本願寺）
小松教務所
〒923-0904
小松市小馬出町26
Tel 0761-22-0555
発行者 保木 悦雄
編集 小松教区教化委員会

ているのは全国的には珍しいことである。さらにここは、お寺の内陣のような造りになっている。

お同行さん

～あなたの隣の門徒さん～

「おぼくさんが繋ぐ」小松市波佐谷町

「おぼくさん当番」は、少なくとも公民館の前身である説教場が建てられた昭和11年には行われていて、その始まりはもっと古いようだ。今に

蓮如上人のゆかりの地であるからだという。かつて波佐谷町は、蓮如上人が吉崎を退去

した後に三男蓮綱が教線拡大の拠点として構えた松岡寺（しようこうじ）があり、一向一揆の拠点のひとつとなった場所である。

この波佐谷は、五〇〇年前「百姓の持ちたる国」といわれ加賀をとりしきっていた一向宗徒たちの大坊主の一人蓮綱のいた地であり、また、松岡寺炎上となった「享祿の錯

乱」後結ばれた四日講の惣道場のあった村でもある

（波佐谷町史）

長年「おぼくさん当番」に関わってきた山本澄子さんは「昔々からの伝統のお内仏を護らなければ。仏様に手を合わせる姿を子や孫に伝えていきたい。母親の『何も遺して

いくものはない。この姿だけ遺していくから」と手を合わす姿をありありと覚えていまず」と話してくれた。そして「若い世代は忙しいのに続いていることがえらい。お礼の言葉をかけてあげたい」と。門徒会のみなさんは、町の行事や活動を敬遠しがちな昨今であるが「おぼくさん当番」を止めようという声が聞かれないことを喜んでおられる。お内仏を護り受け継ぎ、仏様に手を合わす心と波佐谷町の歴史を伝えるために「おぼくさんを中心に繋いでいきたい」と、思いを熱く語られた。



© テレビ金沢

写真提供
「となりのテレ金ちゃん」
誉のドコ行くより

【おぼくさん箱】

当番日誌の表紙には「仏様帳」と書かれている

立教開宗の礎 親鸞聖人伝①

私たちの宗門では二〇二三年、宗祖親鸞聖人ご誕生八五〇年に併せて、立教開宗八〇〇年の慶讃法要を迎えます。これに向けて、曾孫の覚如上人が宗祖のご生涯を仰ぐために書かれた『御伝鈔』をたよりとして立教開宗までの半生を3回にわたってたずねます。



それ、聖人の俗姓は藤原氏、天児屋根尊（あまつこやねのみこと）二十一世の苗裔（びょうえい）《中略》皇太后宮大進有範（こうたいこくのだいしんありのり）の子なり。

『御伝鈔』聖典724頁

承安三（1173）年、親鸞聖人は、現在の京都市の南東に位置する日野の地に生を受けました。父は皇太后に仕える三等官ながらも藤原氏の流れを汲む貴族の日野有範です。母は吉光女（きっこうによ）と伝えられています。幼名は松若丸といいました。

平安末期、治承四（1180）

年から6年間に及ぶ平氏と源氏の争いのなか幼少期を過ごします。貴族が統治する社会から武家社会へと移っていく時代でした。朝廷の家臣の家庭に育った聖人は、権力争いの中で、幼くして父親とは生き別れ、母親とは死別することになりました。幼くして両親と別れた聖人にとって、両親に対する悲しみや思慕の情が生涯心に深く刻み込まれたのではないのでしょうか。

藤原氏：中臣鎌足（なかとみのかまたり）が大化の改新の功績に対して、時の朝廷から賜った姓。鎌倉時代以降は、近衛・鷹司・九条・二条・一条をそれぞれ受け伝え、五摂家として朝廷の代わり執政（まつりごと）を行う摂政・関白の地位を受け継いだ。

天児屋根尊：神話に出てくる神。天の岩戸隠れの天照大神を誘い出したとされる。天児屋根尊の末裔が中臣鎌足。さらに、その流れを伝えるのが藤原氏とされる。



興法の因うちに萌（きざ）し、利生（りしょう）の縁ほかに催いしによりて、九歳の春の比（ころ）《中略》鬢髪（びんぱつ）を剃除したまいき。

『御伝鈔』聖典724頁

親鸞聖人はいずれ朝廷に仕える地位にありました。しかし、当時は、飢饉や疫病がたびたび起こり、都は死人で溢れていたと伝えられています。さらに貴族や武士による権力争いで幼い聖人は世の無常をいやがおうにも知ることとなりました。そうしたなか利生の縁に催され、つまり世の中の平穏を願い、仏道へ入る機縁が熟していききました。9歳の時、伯父であり養父でもある日野範綱（のりつな）に連れられて、後に天台座主をつとめた慈円のもと、青蓮院で出家得度をしました。法名を範宴（はんね

ん）と名付けられました。

以後20年にわたり天台宗比叡山で過ごされます。常行三昧堂

（じょうぎょうざんまいどう）で読経や念仏を勤める堂衆が主な役割でした。さらに先師の教えに学び、厳しい修行に努める日々でした。しかし、それは必ずしも聖人が思い描いていたものとは言えなかったのかもしれませんが。

お釈迦様がお隠れになって1500年が過ぎ、当初の戒律を保つことや悟りを得ることが難しい末法の時代になっていました。最澄が天台宗を開いて400年経過した比叡山も例外ではありませんでした。ときには破戒や名利に心を奪われる修行僧の現実を目の当たりにすることもありました。さらに聖人自身も修行を積み重ねて



『御絵伝』第二図より【得度剃髪】

いつても、悪業煩惱は止むこと
がありませんでした。

ところで聖人は日本に仏教
をひろめた聖徳太子を「和国
の教主」とたたえています。

19歳の時、聖徳太子の磯長（し
なが）の廟所（大阪河内長野）へ参
籠したとされていることから
もわかります。自身が求める
仏教はこれでいいのか。すべ
ての人が救われる教えはどこ
にあるのかを尋ねていかれま
した。

この参籠の時に太子から、こ
の国は争いを無くして平穩を実
現するためには仏教が適してい
ること。さらには範宴の命はあ
と10余年という夢告があつた
と伝えられています。



六角堂の救世菩薩、顔容端
厳（げんようたんごん）の聖僧（し
ようそう）の形を示現（じげん）し
て、『中略』善信（親鸞）に告
命（こうめい）してのたまわく
「行者宿報設女犯 我成玉女
身被犯 一生之間能莊嚴 臨
終引導生極樂」

『御伝鈔』聖典725頁

自身の解決に至らなかつた親鸞

聖人は29歳で比叡山を下りる決
心をします。聖徳太子の夢告がき
っかけにあつたのかもしれませんが。

その足で向かつた先は太子と縁
（ゆかり）のある六角堂（頂法寺）でし
た。京都のほぼ中央にある六角堂
は救世観音菩薩が祀られています。
そこで百日間の参籠を決意しまし
た。そして九十五日目の未明に救
世菩薩の夢告に遇います。「もし
あなたが結婚を望むのであれば、
私は玉女となつて添い遂げましょ
う。さらに臨終の際には引導して
極樂に生まれさせることでしょ
う」。

これは肉食妻帯が公には許され
ない出家者の聖人にとって、すべ
ての人々が救われる道を示すため
に、自らが身をもつて在家の生活
を示しなさいという道を開いてく
ださる言葉でした。

救世観音大菩薩

聖徳皇と示現して

多多のごとくすてずして

阿摩のごとくにそいたまう

『正像末和讃』（聖典507頁）

親鸞聖人にとって聖徳太子とは
救世観音菩薩の化身として現れた
方であり、父母とも重ねていたよ
うです。

このように修行に行き詰まり望
みを失いかけた聖人は、聖徳太子
に道を尋ね、その後法然上人のも
とを訪ねることとなったのです。

（次号へ続く）



『御絵伝』第四図より【六角告命】

親鸞聖人 ゆかりの地



①日野の里 ②青蓮院 ③比叡山

④六角堂（頂法寺） ⑤古水草庵（安養寺）

【教化事業のご案内】

コロナ感染拡大に伴う対応等により
急遽変更や中止される場合があります

◇十二日講 毎月12日9時半

【3月】塚谷真樹氏（燈明寺）

【4月】大窪康充氏

（金沢教区浄土寺）

【5月】森本栄史氏（願成寺）

◇日曜講座

毎月1・3日曜9時半

【3月】6日・20日

【4月】3日・17日

【5月】1日・15日

◇春の合同聞法会

3月26日（土）9時

講師 佐野明弘氏（加賀光闡坊）

◇花まつり

3月31日（木）時間等未定

◇真宗入門講座

3月25日（金）19時

4月22日（金）19時

5月27日（金）19時

講師 滋野井光氏（稱佛寺）

◇社会教化研修会

5月14日（土）14時

5月21日（土）14時

※会場はすべて小松教務所（常磐会館）お問い合わせは小松教務所まで

うららのお寺

教善寺 きょうぜんじ

小松市芦田町

教善寺は、天正年間（西暦1573〜92年）の石山合戦において、その功績を認められた教善（きょうぜん）が鳥越村数瀬（とりごえむらかずせ・現白山市数瀬町）に創建したのが始まりとされている。その数瀬の地に明治27（1894）年に本堂が建設され、地元の門徒を中心に多くの人々が集っていた。しかし、昭和56（1981）年の豪雪で倒壊し、翌年に現在地の芦田町に移転した。本堂の柱には、数瀬にあった旧本堂の樫の円柱八本が使われているほか、余間には顕如上人から授かった阿弥陀如来が掛かっており、石山合戦まで遡る本寺の歴史を偲ぶことができる。

報恩講の際には、数瀬の時からのご門徒が集われている。数瀬は



教善寺（阿弥陀如来絵像）



新住職・大家篤士氏

過疎化が進み現在は当地には住んでいない方々も多いが、一年に一回、同郷の方々とは出会うのを楽しみにされている。

しかし、この二年間、コロナ禍で報恩講を思う通りにできなかった。お参りだけなら感染対策を講じて実施することができると、ここに集まるご門徒の多くはお斎などで旧交を温めるのを楽しみにされているため、苦渋の選択だった。

昨春、住職になられた大家篤士さんは、コロナ禍が収束し、また本堂がご門徒の笑顔とにぎやかな声にあふれる日を楽しみにしているとおっしゃっていた。

古くから、お寺とご門徒のつながり、そして門徒同士のつながりを大切に、その礎としての役割を果たしてきた教善寺。大家新住職は「出会ったご縁を大切に、この教善寺を護っていききたい」と語っておられた。

郡中の小窓

私たちはともすれば、自分の知識や経験にしがみついています。それが苦悩のもととなっているのです。

たとい、法然聖人にすかさず来いまして、念仏して地獄におちたりとも、さらに後悔すべからずさうろう。

『歎異抄』聖典627頁

私はこの一文が、無茶苦茶好きなんです。小難しいこと考えなくても、これだけで法然と親鸞の関係はもう十分にわかります。たとえ法然の教えに従って地獄におちたとしても後悔はしないと言い切っているのですから。

親鸞は、法然を「よき人」「善知識」として出会われました。法然の生き方に連綿と続く念仏の教えがその奥に見えたんだと思います。数多の歩みをしてきた親鸞が、法然との出会いによって、今までの思いがひっくり返ったのです。

「（真実に）出遇った人との出会い」が大事であることに気づかされました。

小松教区教学研究室
『郡中学舎』研究員 新康紀